

幼小連携会議 8.24

令和4年8月24日に、附属小学校から5名の先生方を迎え、長崎大学 森野美央准教授と共に、幼小連携会議を開催しました。文部科学省から、「幼保小の架け橋プログラム」が示され、今後ますます幼小の連携が重要になってきます。本会では、小学校と幼稚園の子どもたちがどのような学びをしているのかを共有して相互に理解を深め、架け橋期の教育をより充実できるようにというねらいで進めていきました。

幼稚園からは、5歳児の12月から卒園の時期までの遊びについて2つの事例を紹介し、どのような学びをしてきたかを伝えました。小学校の先生方は小学校での学びと比べながら、幼稚園での学びが小学校につながっていると実感していました。

小学校の授業の様子も動画で視聴し、子どもたちの学習への意欲の高さを感じることができました。小学校の先生方からは、附属幼稚園出身の子どもたちは、「失敗してもそれを失敗と思わず、次の挑戦を始める。」「躊躇せず自分の思いを表現できる。」「人と違う意見に対し、周りの子どもたちが受容的に受け止める雰囲気がある。」「各自好きなもの（こと）が明確にある。」というお話がありました。

附属幼稚園が大切にしているポイントが、小学校に入学してからも発揮されているのだと思い、嬉しく感じました。今後も、子どもたちが遊びに熱中し、好きなことを突き詰めていけるような保育を続けるとともに、小学校との連携を密にしていきたいと考えています。

